

# CASBEE 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都清水五条計画 新築工事	階数	地上6F、地下1F
建設地	京都府京都市東山区清水五条	構造	S造
用途地域	防火地域、準防火地域、高度地区、景観地区	平均居住人員	700 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2019年9月19日
敷地面積	2,514.07 m <sup>2</sup>	作成者	畠山 大輔
建築面積	1,849.17 m <sup>2</sup>	確認日	2019年9月20日
延床面積	8,966.18 m <sup>2</sup>	確認者	下岡 浩



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 温暖化影響チャート	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.5</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>②建築物の取組み 82%</p> <p>③上記+②以外の 82%</p> <p>④上記+ 82%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> <b>Q のスコア = 3.5</b></p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> <b>Q1のスコア = 3.2</b></p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> <b>Q2のスコア = 3.1</b></p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> <b>Q3のスコア = 4.2</b></p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> <b>LR のスコア = 3.4</b></p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> <b>LR1のスコア = 3.3</b></p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> <b>LR2のスコア = 3.6</b></p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> <b>LR3のスコア = 3.2</b></p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>京都市東山区に新設されるホテルの計画である。歴史的建造物の復元化を計画し日本瓦や格子等伝統的な要素を用いて建物をデザインしている。また、省エネ、省資源への配慮に加え、敷地内緑化を積極的に行うことで良好な環境を形成し利用者の快適性向上を図っている。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>地域文化への貢献として歴史的建造物の復元化を計画している。</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>開口部の遮音性能への配慮、床・壁・天井・天井裏の全面に規制対象外、告示対象外を採用し快適な空間となるよう配慮している。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>更新必要間隔の長い内装材、ダクト、配管材料を採用し建物耐用性に配慮している。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>十分な緑化面積の確保により開放的な空間を形成している。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>太陽光発電設備、高効率設備を採用し省エネルギーに配慮している。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>節水機器やリサイクル材、再利用可能ユニット部材を採用し省資源に配慮している。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LCCO<sub>2</sub>排出量削減に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される